

2007.10.10(水) 晴れ

谷川岳 幽ノ沢 左俣 中央ルンゼ

S 藤英明、M尾恵、S 口光恵

05:30 ノ倉沢出合い - 05:50 幽ノ沢出合い -
07:40 カールボーデン取り付き - 15:30 登攀終了
- 16:40 堅炭尾根 - 18:40 芝倉沢出合い - 19:25
ノ倉沢出合い

S 藤英明

◆ 前回の反省から、アプローチ(沢の遡行のスピード)が成否を分けると判断。大滝はノーザイル、二俣は右俣から大きめに巻く。小釜+ツルツル壁の小滝群も早めに巻きに入る。沢床を注視しながら低く低く巻いて中央ルンゼの出合いを見つける。

下部核心の小垂壁は少し恐かった。どのピッチもランナーが殆どとれないもんだから怖い。登るにつれて、傾斜が厳しくなってくる。英明(M尾さんが違う! って叫んでいるのに...)安易な方、安易な方へと引き込まれて、ルーミスをやらかす。しかし、同じことをやらかす人がいるもんで、残置があった。

上部核心は大ハング下のカンテの乗っ越し、垂直のフェースから微妙な草付バンドをトラバース、ここから先は、フリーは厳しく、人工混じりとなる。人工もピンが飛んでいたりと、横移動があったりで手強い。フリーに移るところがこりやまた怖い。

詰めは易しいスラブ、藪、草付きを登って、堅炭尾根に出る。堅炭尾根は登山道ではないが、刈り払いされていた。かつては不明瞭だった芝倉沢の巻き道もペンキやケルンがあって迷うことはなかった。紅葉が見事でした。

M尾恵

◆ リベンジです。先月、下見したのでアプローチはバッチリ、お天気もバッチリでした。でも、終了少し前のA1ルートは高度感たっぷり怖かったです。久しぶりのテープアプミがなかなか言うことを聞いてくれなくてとっても変な足運びをしてしまいました。青空の中、稜線付近の紅葉が

とてもきれいでした。その紅葉にばかり目を奪われ、せっかくの幽ノ沢、下の方はほとんど見ていませんでした。そして、結構順調に行ったと思ったのに、やっぱりヘッドン下山になりました。でも、堅炭尾根がごく最近(今日か?昨日か?)刈払いをしたばかりのようで歩きやすく、大助かりでした。

登っている時は「こんな怖いところ、2度と来るものか!」って思うのですが、終わってしまうと、「ああ、面白かった!」ってなるのがクライミングなのですね。「来年はもっと練習しよう!」って、毎年毎年、思っているのですが・・・。

S 口光恵

◆ 前回はアプローチに運動靴を履いていたので、取り付きまで行くのに(行っていないけど)つるつる滑ってとても怖い思いをした。そこで、今回は沢靴を履いて万全を期す。大滝、二俣を過ぎ小滝を巻いて降りたら、そこが取り付きに至る沢の入り口だった。

最初は狭い沢だったが、しばらくするとカールボーデンと呼ばれる広いスラブに出る。だんだん傾斜がきつくなる。どの位の傾斜まで滑らずに靴が耐えるのかちょっと不安。でも眼下には乾いた美しい白いスラブが広がり、目を上に向ければ赤く色づき始めた木々。なんて気持ちがいいんだろう!来て良かった。

靴を履き替えロープをつける。今回は3人なので気分的にとっても楽。ひとりがビレイしている時、もうひとりがロープが絡まないようにほどいてくれたりするので楽チン。核心部のアプミを使うところは、M尾さんがなんと3つもアプミを掛けておいてくださったので、私はそれに乗るだけ。楽チンである。でもフィフィを使ったことがなかったのでそれはダメだったな。練習します。

下山で私の懐電が超旧式で暗く足が進まず迷惑をかけてしまいました。新しいのを買います。

錦秋の一ノ倉尾根

